



高原の自然館ニュースレター

# 苅尾電波塔

第118号

2013.11.15

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

## もくじ

### お知らせ

- 一館内展示の追加について
- 一冬期の観察会について
- 一冬期休館について

### 活動報告

- 一キノコの観察会
- 一紅葉と冬芽の観察会
- 一ゴギの繁殖観察会

### 観察会案内

- 一かんじき作り
- 一冬を生きる動物の生態
- 一雪原のトレッキング

## お知らせ

### ●館内展示の追加についてのお知らせ

高原の自然館内の鳥類展示に新しい仲間がやってきました。ヒレンジャクとソウシチョウです。賑やかになった館内展示をぜひご覧ください。

### ●冬期の観察会についてのお知らせ

冬期の観察会は、大雪などの悪天候の場合、中止になる可能性があります。連絡がとれるよう、必ず事前に申し込みをお願いします。

### ●冬期休館についてのお知らせ

11月26日から高原の自然館は冬期休館となります。休館期間と連絡先は以下の通りです。

冬期休館期間：11月26日～4月24日  
冬期の連絡先：北広島町役場芸北支所2階  
高原の自然館研究室

〒731-2323

広島県山県郡北広島町川小田75

メール：staff@shizenkan.info

電話番号：080-6334-8601

FAX：0826-35-0386

※平日（月～金）の9:00から17:00まで

# 観 察 会 報 告

## ●キノコの観察会

開催日時：2013年10月12日（土）9:30

講師：川上嘉章・新谷正信

急に気温が下がり、風が冷たいお天気のもと、キノコ観察会が行なわれました。全部で25名の参加者が聖湖キャンプ場の駐車場に集まり、今回の講師である川上先生、新谷先生からキノコの採集の注意点を聞きました。細部までの同定が必要な際があるので、地中部からとっておくとよいことや、ナイロン袋などではなく、カゴにいれたほうが痛みにくいこと、強い毒性を持つ「カエントケ」は触れるだけでも危険であるので注意すること、ということでした。

採集時間を設け、キャンプ場内をキノコ探しに出かけます。1時間後に集合した時には、参加者はみんなかご一杯にキノコを持ち帰ってきました。

今回の観察会では、58種のキノコが確認されました。

おいしいといわれるハタケシメジ、一本で致死量となる毒性を持つドクツルタケ、英名では「天使の翼」と言われるように美しい姿をしているスギヒラタケ、モグラのトイレに発生するナガエノスギタケ、その姿から名前がついたスリコギタケなど個性あふれるキノコについて先生方から詳しい解説を聞き学びました。どのような場所に生育しているのかや、名前の由来、分類の難しさなどを知ると、本当にキノコの世界も深いなあと感じました。

今回は夏と秋のキノコの狭間の時期ということで、種類は少なかったようですが、専門家の先生の解説により、大人から子どもまで楽しめる観察会となりました。

キノコの世界ではまだ名前のついていないものもあるということです。新しい種が発見できる機会があるかもしれません、というお話も印象に残りました。 [このやよい]



観察会は初めて、という方も多かった



川上先生からカエントケの注意、まっかな姿が特徴。



新谷先生は道具を使いキノコを採集。こうすると地中部もきれいに採集できる。



キャンプ場内をくまなく歩いてキノコ探し。



サナギタケの地中部にはサナギの姿が。



どうやって食べようか？「ハタケシメジ」を見つけたよ。

### 【みなさんの印象に残った物】

「食用のキノコが少ないこと」「さすがに涼しかった」「食用は少ない」「食べられそうにないと思ったのが意外と食用で、食べられそうなのが不食だったこと」「みんなで散策しながら、いろんなキノコを見つけたこと(3)」「サナギタケ・スリコギタケなど、すべてがめずらしかったです」「こんなにたくさんの種類があるのかと思いました(2)」「ハタケシメジがとれたこと」「静かな林の中で気持ちがよかった。初めて会った方々と楽しく過ごせました。珍しいキノコが採れて勉強になりました」「図鑑でしか見たことがなかった冬虫夏草を発見できて興奮しました」

### 【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「涼しい森の中を歩いて気持ちよかった」「もう少しキノコを探す時間がほしい(2)」「さわやかな散策ができました」「あまり見つけられなかったが、楽しかった」「すぐに見つけて食べられるものを取って食べられるようになるのは、まだまだ道のりが長そうです」「食用が意外に少ない」「キノコについて、何も知らないで参加したのですが、いろいろ教えてくださって、興味が湧きました」「いろいろのキノコをみれてよかった」「初めてキノコの観察会に参加しました。1人で図鑑を見ても分からないことが多かったので、大変勉強になりました」



ひとつひとつ手に取って解説される川上先生。

## 観 察 会 報 告

### ●紅葉と冬芽の観察会

開催日時：2013年11月4日（月・祝）9:30

講師：斎藤隆登

出発直前まで小雨がふったりやんだり、天候が心配される中、紅葉と冬芽の観察会が行われました。今回の講師は斎藤先生です。

高原の自然館に13名が集合し、観察前に事前学習を行いました。冬芽の多くは芽鱗（がりん）と呼ばれる厚い皮や毛に覆われて冬の寒さから芽を守っていること、春になり、芽が成長すると芽鱗が剥がれ落ちて芽鱗痕（がりんこん）ができ、それを辿ることで枝が1年でどれだけ成長したかが分かることなど、冬芽を観察するときのポイント、斎藤先生が丁寧に描かれた図鑑を見ながら教えていただきました。

植物の冬の姿や紅葉の様子に期待をふくらませながら、現地へ車で向かいました。臥竜山の中腹から降車し、雪霊水まで歩きながら観察を行います。途中、千町原に立ち寄り、粘つく樹脂に覆われたトキノキの冬芽や、落葉したケヤキの葉を観察しました。参加者は指に残る樹脂の感触を楽しんだり、ルーペを使ってじっくりと眺めるなど、斎藤先生が解説されたことを実際に確かめながら、植物を観察していました。

千町原での観察を終えると、臥竜山に向かいました。山中はガスが薄くかかり、ひんやりとした空気に包まれていました。高い場所や離れた場所にある枝を、先生お手製の道具を使い、手元に引き寄せて観察します。1つの枝先から複数の冬芽をつけた後、効率よく日光を受けられる枝以外を落とすことで、枝が波打つように伸びていくリョウブやヤマボウシ、丸い花芽（かが）と細長い葉芽（ようが）をつけるクロモジなど、冬芽や樹皮での植物の見分け方を解説されました。「花や葉と一緒に冬芽や樹皮を覚えると、どの季節でも植物を楽しめますよ」と、この時期ならではの楽しみ方を教えていただきました。雪霊水付近では、あまりなじみのないクロカンバを観察しました。葉脈が目立つ特徴的な葉は落ちていましたが、黒い樹皮と対生する冬芽から見分けることができました。

秋の紅葉を楽しみながら、植物の冬の過ごし方を確認できた観察会となりました。

[ありみつまさかず]



まずは千町原から観察開始。



トキノキの冬芽。触ってみるとネバネバしていた。



ルーペを使ってヤマザクラをじっくりと観察。



きれいな状態で落ちていたケヤキの葉。



車道脇の小さなブナ。周りの大きなブナより一足早く黄葉を終えていた。



臥竜山の中腹から雪霊水へ歩く。道は落ち葉で彩られていた。

### 【みなさんの印象に残った物】

「葉がなくても、冬芽をしっかりと観察することで、種がわかること」「クロカンバの木が見られたこと。特徴的な冬芽と枝でした。葉も見なかったです」「種によって冬芽がいろいろ違うことに興味がわいた」「トチノキの冬芽」「クロカンバ発見！(3)」「クロカンバの冬芽(3)」「植物は冬の寒さにいろんな工夫をして頑張っている姿に感動」

### 【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「クロカンバ、とても勉強になりました」「寒かったが、参加してよかった」「冬芽のつき方にもいろいろあり、それぞれの特徴をくわしく説明していただきよく分かりました」「寒かったけど、熱心に教えていただいた事に感謝します」「寒かった」「楽しかった(2)」「冬芽をあんまり見る機会がなかったので、おもしろかったです」「紅葉が美しかった」「もっと時間をかけてゆっくりと先生の話聞きながら歩きたい」



丸い花芽と細長い葉芽の2つの冬芽をつけるクロモジ。

## 観 察 会 報 告

### ●ゴギの繁殖観察会

開催日時：2013年11月10日(日) 9:30

講師：奥山秀輝・白川勝信

小雨が降り川の様子が心配される中、ゴギの繁殖観察会が行われました。

今回は内藤順一先生が講師の予定でしたが、都合により、奥山先生と白川学芸員が講師です。

ゴギはイワナの仲間で、頭部の白い斑点が特徴であること、主に中国山地の標高の高い冷水域に生息しており、イワナ属の中では西限に生息していること、採集圧や放流されたヤマメとの競合などにより個体数が減少し、広島県では絶滅危惧Ⅰ類に選定されていることなどを白川学芸員がスライドを使って解説しました。続いて、オスとメスがペアになって泳いでいる姿や、メスが体全体を使って砂礫(されき)を掘り、産卵床を作っている場面、「舞の行動」と呼ばれる産卵後にゆらゆらと産卵床の回りを泳いでいる様子などを、内藤先生が撮影していたビデオを見ました。

事前学習の後は、実際にゴギを観察します。水の流れがゆるやかで、砂礫が堆積している場所に産卵床を作ります。水深の浅い場所をゆっくりと泳いでいるので、姿を観察しやすくなっているそうです。

現地に到着後、上流側と下流側に分かれてゴギの姿を探しました。参加者は産卵場所を覗き込んだり、双眼鏡を使って水面を眺めましたが、観察を始める直前に雨脚が強くなり、川が濁り始めていて、下流側ではゴギが確認できませんでした。「川が濁るのは砂礫などがたくさん流れているため、その状態で産卵床を作ってもすぐにまた埋まってしまいます。水の流れも速くなるので、産卵をしたいゴギは流れがゆるやかな上流へと登っているのでしょうか」と、奥山先生が話されました。上流側では産卵行動は見られませんでした。単独で行動しているゴギの姿を確認でき、「見れた!」「また現れるかも」と、期待を込めて観察する場面もありました。

観察できた時間は短く、見れた方も少数だったのが残念ですが、幻の魚といわれる貴重なゴギの姿を見ることが観察会となりました。「来年こそは産卵行動を見るぞ!」という期待を込めて現地を後にしました。[ありみつまさかず]



観察会には子供達もたくさん参加した。



講師の奥山先生と白川学芸員。



内藤先生が撮影されたビデオを見る。メスが産卵床を掘る姿が鮮明に映っていた。



下流を探す奥山班。奥山先生から産卵に適した場所を教えていただく。



観察会終了後も観察を続けた。雨脚が弱まりゴギの姿も見られた。



ゴギを観察できた上流側の観察場所。



ゴギの産卵には良くない天気だが、カエルには絶好の活動日和。

### 【みなさんの印象に残った物】

「雨で川にごっていて残念です (3)」「ゴギの産卵期に樹木の紅葉が彩りを増すベストタイミング。雨でゴギが見えなくて残念です。」「ゴギを双眼鏡で見たこと (2)」「ビデオでのゴギの産卵 (2)」「ゴギを双眼鏡でのぞいたこと」「ゴギがいる場所がこんなに水たまりの様な所で川幅がせまいこと」「雨とイワナの分布についてと分類」「にごりが出ると産卵床を作らないこと」「いい話が聞けてよかった」

### 【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「紅葉がきれいでしたが、雨で観察会が残念でした。子供達が沢山来てたのに残念でした」「限られた環境に生きていることに尊さを感じた」「双眼鏡の景色がよかった」「今日は雨の中ゴギは見られなかったが、上流の厳しい環境の中で、生きていることが良く解った」「生息環境が見れてよかった (2)」「とても勉強になりました。この様な環境がずっと残ってほしいです」「とてもためになった」「他のイワナのことや生息地、各地域のゴギの特徴が知れて楽しかったし勉強になった。また機会があれば見に来たいです」「内藤先生がおられなかったのは残念でしたが、いいお話が聞けました」「産卵の現場が見られなかったのが残念」

## 観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

**基本セット**：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳  
**作業セット**：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

### ●かんじき作り

開催日時：2013年12月1日(日)10:00  
集合場所：八幡高原センター  
講師：坂井健作  
準備：作業できる服装  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
材料費：1400円

深い雪の上を歩くための道具「かんじき」を作ります。輪の形に曲げた木の枝にひもをさないで(結んで)いきます。「きたひろしまの達人」に認定された、坂井健作先生の技を間近で見ながら、自分だけのかんじきを作ってみませんか?自作のかんじきを履いて八幡の雪原をトレッキングするのも楽しいですよ!



### ●冬を生きる動物の生態

開催日時：2014年1月18日(土)10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、双眼鏡、スノーシュー  
かんじき  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル：400円

多い年だと1m以上の積雪がある時期です。雪の千町原を、動物の足跡や食痕などのフィールドサインを探してアニマルトラッキングをします。また、シベリアからやってきたツグミやキレンジャクなどの冬鳥や、その食べ物となるカンボクヤドリギなどの実も観察します。

### ●雪原のトレッキング

開催日時：2014年2月9日(日)10:00  
集合場所：高原の自然館  
講師：上野吉雄  
準備：基本セット、スノーシュー・かんじき  
定員数：30名  
参加費：一般=300円、賛助会員=100円  
正会員・中学生以下=無料  
かんじきレンタル：400円

雪で覆われた霧ヶ谷湿原で、どんな動物が見られるでしょうか。冬に活動する動物の食痕、足跡などのフィールドサインを探します。ユキクワゲラ・トビムシ・クモガタガンボ等、雪上で生活するユキムシも探してみましよう。

八幡は紅葉シーズンを一足早く終えました。リンドウやウメバチソウも紅葉と共に姿を潜め、少しずつ冬へと景色を変えています。暖かい日には外に出て、はらはらと舞い落ちるコナラの葉を眺めながら、お昼の時間を過ごしています。高原の自然館は11月26日から4月24日の間、冬期休館となります。ご用件のある方は、お知らせ欄記載の冬期連絡先へご連絡ください。(ありみつ)

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

#### 高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1  
tel. & fax : 0826-36-2008  
<http://shizenkan.info/>  
staff@shizenkan.info